

第4問 (20点)

当工場では、第1工程と第2工程を経て、製品Qの大量生産を行っている。製造間接費の配賦には部門別原価計算を採用しており、原価部門は、製造部門である第1工程と第2工程、補助部門は動力部門と保全部門を設けている。次の〔資料〕にもとづいて、各問に答えなさい。

〔資料〕

1. 製造間接費の配賦に関する資料

(1) 当月部門費計実際発生額

第1工程	第2工程	動力部門	保全部門
310,020円	319,210円	124,000円	189,000円

(2) 補助部門費配賦割合

補助部門費は直接配賦法にしたがい、各製造部門に配賦する。

	第1工程	第2工程	動力部門	保全部門
動力部門	40%	40%	—	20%
保全部門	40%	50%	10%	—

(3) 製造部門費は、直接作業時間を基準に予定配賦している。各工程の予定配賦率は第1工程790円/時間、第2工程810円/時間である。

(4) 実際直接作業時間は第1工程576時間、第2工程600時間であった。

2. 当月生産データ

材料は、工程始点で全量投入され、第1工程完了品はすべて第2工程に振り替えられる。なお、各工程とも、仕損、減損は生じていない。

第1工程 月初仕掛品 200個(40%)、当月完了品 ? 個、月末仕掛品 400個(60%)

第2工程 月初仕掛品 0個、当月完成品 2,400個、月末仕掛品 600個(50%)

3. 当月総製造費用データ

(1) 当月製造費用

① 第1工程 直接材料費 576,000円、直接労務費 303,360円、製造間接費 ? 円

② 第2工程 前工程費 ? 円、直接労務費 324,000円、製造間接費 ? 円

(2) 月初仕掛品原価

直接材料費 39,000円、加工費 16,200円

4. 計算条件

(1) 月末仕掛品の評価は先入先出法である。

(2) 計算上端数が生ずる場合、解答時に円位未満四捨五入しなさい。

(3) 上記資料で不明なところは各自推定すること。

問1 答案用紙の各勘定に適切な金額を記入しなさい。

問2 答案用紙に示されている金額を答えなさい。

第 5 問 (20 点)

(株)立川工業は単一製品の連続生産を行っている。下記の〔当月資料〕にしたがい、答案用紙の総合原価計算表を完成させなさい。なお、製造原価の計算は実際単純総合原価計算により、計算上端数が生ずる場合、計算途中で端数処理はせず、解答時に円位未満を四捨五入しなさい。

〔当月資料〕

1. 当月生産データ

月初仕掛品	600 個	(30%)
当月投入量	<u>4,400 個</u>	
投入量合計	5,000 個	
正常仕損品	300 個	
月末仕掛品	<u>500 個</u>	(60%)
当月完成品	<u><u>4,200 個</u></u>	

2. 月初仕掛品原価

(1) 材料A	140,530 円
(2) 材料B	40,680 円
(3) 材料C	? 円
(4) 加工費	? 円

3. 当月投入原価

(1) 材料A	1,034,470 円
(2) 材料B	1,039,320 円
(3) 材料C	705,000 円
(4) 加工費	? 円

4. その他

- (1) 加工費は直接作業時間を基準に正常配賦している。加工費月間予算額 2,240,000 円、月間基準操業度は 1,400 時間であり、正常配賦率を算定する。当月実際直接作業時間は 1,300 時間であった。
- (2) 材料Aは工程始点で全量投入しており、材料Bは工程を通じて平均的に投入、材料Cは加工進捗度 40%の地点で全量投入された。
- (3) 月末仕掛品の評価は平均法である。
- (4) 正常仕損は工程終点で全量発生した。正常仕損費の負担計算は度外視法による。なお、仕損品には 1 個当たり 85 円の評価額があり、材料Aから控除すること。
- (5) 上記資料以外で不明なところは推定すること。